



2020年8月25日
東日本旅客鉄道株式会社

「DX 銘柄 2020」に選定されました

このたび、JR東日本は「DX 銘柄 2020」に選定されました。DX 銘柄は、積極的にデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む企業を経済産業省及び東京証券取引所が選定するもので、DX がグローバルな潮流になっていることをふまえ、過去 5 回にわたり実施してきた「攻めの IT 経営銘柄」より改められたものです。なお、「攻めの IT 経営銘柄」を含めると、JR 東日本は同銘柄が創設された 2015 年から 6 年連続の選定となります。

■ 選定に至った JR 東日本の主な取組み

[JR 東日本グループ経営ビジョン「変革 2027」]

2018 年 7 月に公表したグループ経営ビジョン「変革 2027」では、「鉄道のインフラ等を起点としたサービス提供」から「ヒト（すべての人）の生活における『豊かさ』を起点とした新たな価値創造」へと転換し、JR 東日本グループの強みを生かし、技術革新や移動・購入・決済のデータ融合により新たな価値の創造を目指しています。

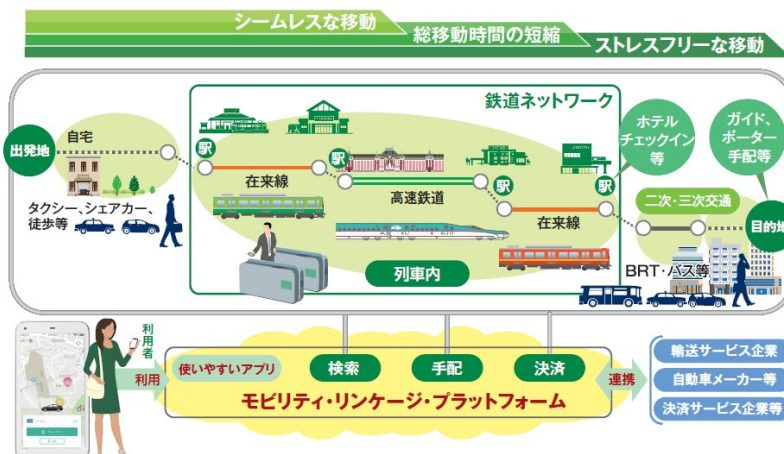
新型コロナウイルス感染症は、社会に不可逆的な構造変化をもたらしています。「変革 2027」実現に向けた取組みを一層スピードアップしていくとともに、成長戦略を再構築し、お客さまの行動変容、価値観の変化に対応した新たな価値を創造していきます。

[MaaS 実現に向けた取組み]

弊社は、「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム」を構築し、「シームレスな移動」「総移動時間の短縮」「ストレスフリーな移動」の実現を目指しています。

その取組みの一つとして、タクシーやシェアサイクルといった各種モビリティサービスを一つのアプリケーションに統合した「Ringo Pass」を 2020 年 1 月にリリースしました。本アプリでは、Suica の ID 番号とクレジットカード情報を登録することで複数の交通手段（タクシー・シェアサイクル）をスムーズにご利用いただくことができます。

今後も、暮らしや移動がより便利で楽しくなるよう、引き続き MaaS を推進していきます。



モビリティ・リンケージ・プラットフォーム

[コロナ禍における取組み]

列車や駅をお客さまに安心してご利用いただくため、2020年7月よりスマートフォン用アプリ「JR 東日本アプリ」で、首都圏各線区の列車毎の混雑状況や山手線内27駅の混雑予測情報の提供を開始しました。

また、接触機会低減や駅設備消毒作業効率化を目指し、各種ロボットの実証実験を高輪ゲートウェイ駅で開始しました。

今後もお客さまにより安心してご利用いただけるよう、様々な取組みを進めていきます。



消毒作業ロボット



軽食・飲料搬送ロボット



JR 東日本アプリでの混雑状況の提供

[MaaS・Suica 推進本部の設置]

「移動のシームレス化」「多様なサービスのワンストップ化」「データを活用した新サービスの導入」の実現に向け、Suica・MaaS・データマーケティングを三位一体で推進するため、2020年6月に「MaaS・Suica 推進本部」を設置しました。

「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム」等を構築し、利便性の更なる向上を図るとともに、移動情報・購入情報・決済情報などのビッグデータを活用したデータマーケティングを推進し、お客さまのニーズに応じたサービスの提供と、新たなサービスの導入を実現します。

■ 「DX 銘柄 2020」について

経済産業省と東京証券取引所が共同で、デジタル技術を前提として、ビジネスモデル等を抜本的に変革し、新たな成長・競争力強化につなげていく「デジタルトランスフォーメーション (DX)」に積極的に取り組む企業を、東京証券取引所の上場会社（一部、二部、マザーズ、JASDAQ）の中から業種区分ごとに選定して公表するものです。DX がグローバルな潮流となっていることをふまえ、本年より「攻めの IT 経営銘柄」から改められました。前身の攻めの IT 経営銘柄を含めると、弊社は6年連続の選定となります。



DX銘柄2020
Digital Transformation